

人材育成の現場から



京都府立林業大学校

ふないぐんぎょうたんばちょう
京都府船井郡京丹波町

修学期間：2年間 定員：1学年20名

京都府立林業大学校は平成24年に西日本では初めての林業専門学校として開校しました。本校では森林や林業に携わる人材を育成する学校として、「自然を尊敬できる人」を育て、即戦力として活躍できる技術や知識を身につけることを第一に教育しています。

本校の2年次には開校当初から林業の先進国であるドイツに研修旅行を行っています。この研修旅行ではドイツの森林・林業を現地で学び、日本との違いを理解することにより、これからの日本における森林利用について考察できる人材を育成することを目的としています。

今年度は6月初旬に5泊8日の日程で、主にドイツ南部のバーデンヴェルテンベルク州の黒い森地域に行ってきました。客員教授から黒い森と人との関わりを学び、伝統的な家屋や製材施設を見学し、気候に適した家づくりについて学びました。また、地元の伐採業者が行うドイツトウヒの伐採作業や林業機械の作業現場を見学し、日本との労働環境や林業機械の違いを間近で感じる事ができました。そして、林業専門大学であるロッテンブルク林業大学を訪問し、ドイツの鳥獣被害や対策について講義を受けました。大学の演習林ではシカの食害が発生しており、防護柵や食害防止チューブの設置されている場所を見学し、大学生と意見交換を行い交流を深めました。

研修旅行後には、学内でドイツ研修報告会を行います。2年生は報告資料の作成やプレゼンテーション能力を培うことを、1年生は次年度の研修旅行の意欲を高めることをねらいとしています。



伝統的な農家住宅を見学



製材所で製材機や製材工程を見学



林業機械による伐採から集材、
運材までの作業を見学



ロッテンブルク林業大学での講義



ロッテンブルク大学の演習林にて記念撮影



帰国後の研修報告会

人材育成の現場から



兵庫県立森林大学校

しそうし
兵庫県宍粟市

修学期間：2年間 定員：1学年20名

本校では、世界の林業をリードする欧州への視察研修を2年生の必修科目に位置づけ、欧州の中でもわが国と地形が似ており、機械化やIoTをはじめとしたスマート林業の先進地であるオーストリアを研修先として選定し、毎年6月に海外研修を実施しています。

研修の中心は、オーストリア連邦森林・自然災害・景観研究研修センター（BFW）国立のオシアッハ森林研修所（ケルンテン州オシアッハ村、ウィーンから列車とバスで約5時間）における研修で、下表のとおり、大型林業機械（大型トラクターによる集材）を使った作業システムやCLT工場の見学のほか、森林レクリエーション体験、オーストリアと国境を接するスロベニアや北イタリアの林業の視察など、欧州の森林、林業の最前線について、幅広く学ぶことができるプログラムとなっています。

日程	主な研修内容
初日	研修所到着、周辺の森林散策
2日目	オーストリアの森林・林業の概要、研修所の演習林見学
3日目	フォレスターの仕事の紹介、ストラエンソ社 CLT 工場の見学
4日目	スロベニア、北イタリアの林業の視察
5日目	国立公園の視察（自然保護と林業の両立）
6日目	タワーヤーダ等の作業システムの現場視察
7日目	研修所周辺の散策、研修所出発

昨年(2019年)、一昨年(2018年)の研修の様子は、森林大学校Facebookページ(<http://www.facebook.com/hyogoshinrindai>)において、多数の写真とともに紹介していますので、ぜひご覧ください。



大型タワーヤーダの前で記念撮影



大型トラクターによる集材の様子



CLT工場の広大な土場と原木



森林散策（レクリエーション体験）



スロベニア林業の視察



オシアッハ森林研修所での夕食